

L : M上、M浦、M本、W辺、H口

朝、駅前市場の食堂へ行くと、食材の買い出しを終えたM上さんとM本さんがテーブルに着いていた。市場で新鮮な海産物を仕入れて行くのがこの八甲田山行のお約束なのだ。この後、酸ヶ湯で 12:30 に集合するのだが、二人はその前にスキー場で滑るために 8:10 発のバスに乗るそうだ。僕はその後の 9:20 発のバスでゆっくり行くので荷物を取りにホテルへ戻った。

毎年恒例となっているこの八甲田山行だが今回はスキー初心者のM本さんとナベの二人が加わった。M上さんは二人に月 2 回ペースでスキーを教え込んでいるのだがその講習の一環にしたわけだ。テントで 2 泊した後、深沢温泉と酸ヶ湯温泉へ泊まる 4 泊 5 日の長期遠征である。

9 時にバス停に行くと二人はまだバスの列に並んでいた。朝一のバスがものすごい行列で臨時便が何本か出てもまだ積み残しになっているのだそうだ。今も列は待合室の裏側まで回っている。

二人が乗り込んだのが 9:20 くらい、僕が乗れたのは 10 時であった。そこまで遅れたおかげで 11 時台のバスになる予定であったナベも偶然これに乗る事ができた。

酸ヶ湯に着くとまずは食堂でランチを済ませ、スキー装備になってからテントの設営場所を探す。昨年は登山口近くに張ったが、今回はもう少し人気の無い場所を探し地獄沼の近くを選んだ。



雪面を慣らし北西面に風除けのブロックを積み上げ前回より大きい 6 人用テントを張る。2 時間くらいで設営を終え、足慣らしに大岳の麓まで歩いてみる事にした。

15:20 出発、テントの裏から回り込んで登山道に出た。トレースをなぞって歩くが途中からトレースを離れそのまま直進しアオモリトドマツの森の中に入って行った。狭い樹間を縫って行くが試しで先頭を歩いていたナベが進めずに行き詰まった所で「まあ今日は足慣らしだしここまででいいか」とM上さんから引き返しの合図が出た。

登山道に出てコースの標識を追いながら滑って行く。八甲田ホテルが見えた所からトレースを離れ 16:40、テントに戻った。

さて、八甲田テント泊の楽しみはM上シェフの作ってくれる美味しい食事である。まずは市場で仕入れて来た新鮮な刺身から。今日はタイとカンパチ。ホタテは貝付きのものしか無かったそうなので貝柱にヒモやキモが付いている。M本さんは生ではダメなようでバター焼きにしてもらった。最後は銀ダラの水炊きが出され初日から幸せなご馳走である。

寝ている間、やけに狭く感じた。朝起きてみるとナベが荷物を広げていたのだ。「そんなんじゃないくらテントを大きいのにしても広くならないよ。自分で工夫しなくちゃ」とM上さんが注意した。

朝は昨夜の水炊きの出汁で作ったおじやが出てきた。銀ダラのいい風味が香った。

外はいい天気。硫黄岳や櫛ヶ峯が白く光っている。8:20、テントを出発。温度が上がって雪面が固くなり、歩き出して昨日上れた傾斜が上がりできなかった。

登山道に出て地獄沼沢を上がって行くと、今日は人出が多く谷筋に沿って上がって行く人が列をなしている。

一本取った後、仙人岱に向けて歩き出す。両岸が白く高く狭まってくると先の方には樹氷が乱立している。その間をスキーやスノーシュー、アイゼンの人が上って行く。「こっから左へ行こう」とM上さんが声を上げた。人が多い所は好きじゃないのだ。

大岳の南斜面に向かって行った。1,340m まで上がった所でクローを付けた。仙人岱を見下ろすと真っ白な雪面に樹氷が規則的なんだか不規則なんだか面白く並んでいる。



登山道を横切って突き進むと滑った跡のような真っすぐなトレースが稜線に向かって伸びていた。傾斜的にも歩きやすそうだったのでそれをなぞって進んで行くと「真っすぐ行かないでキックターン入れて！練習！」とM上さんが声を張り上げた。二人にキックターンの実戦練習をさせたかったらしい。

大岳の縁まで上がるとホッとした気持ちで眼下を眺め回せる。円錐形の高田大岳と少し丸みをもった小岳はそれぞれ個性を持って並んでいる。

そして 11:10、大岳山頂の標識に着いた。今日は快晴で眺めが素晴らしい。青森湾、津軽半島、岩木山が浮かび、櫛ヶ峯、小岳、高田大岳、雛岳と見回す。今日来た人はみんなラッキーだと思っただろう。風は強かったけれどそれはいつものこと。

滑走は大岳の北側へ回り込む。滑り出しは強風で作られたシュカブラでガリガリだった。高度を下げた後時計回りで東へトラバースして行くと東斜面に入った所から雪質が良くなり小岳とのコルに向かって気持ちのいい滑りが出来た。

コルに着くとM上さんが「ここでランチにしよう」と言い出した。えっ?! 山頂の風の中でM本さんも僕も慌てて行動食をパクついたので。そう言うつもりなら、早く言ってよ。「なんにもあんな風のある所で食べなくていいんだよ」と白い歯を見せて笑う。

目の前には樹氷を伴った小岳が爽快な感じで立ち上がっている。何パーティーもが上がり行くのが見える。時間はまだ 12 時、このまま行けそう。しかし「時間的にはいいけど、もうナベちゃんの足が上がらないから帰ろう」とM上さんが判断した。

帰路は地獄沼沢の谷筋ではなく、その右岸側を回って行く事になった。仙人岱から少し上ってトラバースした後、150m くらい下って登山道に出るという事だった。

トラバースして行くとアオモリトドマツの森にぶち当たる。悪戦苦闘で森を抜け「あの沢の向こう側へ行って」と説明があった。

沢筋の右岸側に渡った所で集まり、次の一本を先頭で滑って行った。樹間も空いて滑りやすかった。少し長めの一本となったが、途中で止まり後続を待った。

しかし後続はなかなかやって来ない。誰か転んで時間が掛かっているのだろうか？さらに時間は経過するが、やって来る気配は無い。呼んでみたが返事も無い。

15分待った。まさか救助要請でもしているのか？それならいったんテントまで戻って待機した方がいいだろう。YAMAPで位置を確認し登山道に向けて滑り出した。絶対にケガなどしてはならない。

幸い樹間は密でなく割りとお早く登山道に出る事ができた。トレースを辿って行くと地獄沼の方へ出てしまったが雪がつかがっていたので14:25、無事にテントまで戻る事ができた。スマホを機内モードにしていたので解除するとM上さんから着信が入っていた。掛け直すとしばらくして応答があり、沼の近くまで来ているのであと10分くらいで戻ると言う。まずは連絡がついて安心した。

三人が戻って来た。どういう事だったのか聞くと、僕が滑って行った方向が谷筋だったので「そっちじゃない」と叫んだそうだが聞こえずにそのまま行ってしまったらしい。きっと僕なら自力で戻れると思って後を追わず別のルートへ行ったのだそう。でも腑に落ちなかった。

それでM上さんに言った。間違っただけへ行っただとしても誰か一人が状況を伝えに来てもらえなかったのだろうか。これでは見捨てられてしまったように思う。

するとM本さんも口を挟んだ。

「あれで良かったんですかね？トランシーバーも無いし、連絡もつかないなら決定的に危険な所じゃなければ後を追っても良かったんじゃないですか？」

それでM上さんも

「俺の判断が悪かった」と言ってくれた。

今晚の夕食はまずはつまみとして魚のブルスケッタ。そして大きな鮭の塊を分厚く切り分けて作ったサーモンクリームシチュー。M上シェフの山行でなければテントの中で食べられるものではない。

そうしている間、風が吹き始めいよいよ天気が下り坂になってきた。



横になっても眼が冴えていた。遠くに風のうなる音が聞こえるとほどなくテントの横っ腹を押し付けるように風が吹き付けてくる。3時過ぎから雨が降り出しフライの無いテントの壁面が濡れだした。

6時になって起き出すと床面の低い所には水が溜まっていた。手ぬぐいで吸わせて対処する。雨は止んでいたが風はまだ強い。みんな（M上さんは除く？）戦意喪失であった。

当初の計画ではここにテントを張ったまま山行に必要な荷物をデポして出掛けて、ロープウェイの山頂駅で今日来るあややと待ち合わせるようになっていた。そして山頂駅から今日泊まる深沢温泉まで滑って行くはずだったが、この強風ではロープウェイは運休になるだろう。それで深沢温泉に電話して酸ヶ湯まで迎えに来てもらうようお願いした。あややにも酸ヶ湯へ来るよう連絡を入れた。

今日の行動中止が決まって朝食の準備に取り掛かる。メニューはお好み焼き。広島出身のM上さんは“おたふくソース”にこだわりを見せていた。

朝食の間も風がテントを揺らしていた。

「これだとテントをここに残して行かない方がいいな」という判断でテントを撤収することにした。

テントを撤収する前にナベは帰って行った。3人で撤収を終える頃には曇っていた空が明るくなってきた。でも風は相変わらず強い。酸ヶ湯に移動しあややを待った。やはりロープウェイは終日運休らしい。

12:30 到着のバスであややはやって来た。食堂で昼食を済ませ、14時に深沢温泉のご主人が迎えに来てくれた。車が大きくなかったのでわざわざ2台用意してくれた。深沢温泉ではちょうど自衛隊の雪中訓練が入っていて別棟はまるまる占拠されていた。駐車場には装甲車が何台も停められている。

深沢温泉の湯は硫黄泉に鉄分が含まれているような感じである。久しぶりの風呂に湯上りのビールが美味しい。

ミラノコルティナ五輪が終わりテレビでは総集編をやっていた。それを見ながら「昔スケートをやっていた」とあややがカミングアウトした。

部屋は床から暖かくしているようでそのためかカメムシが時々姿を現わす。カメムシが苦手なM本さんが目ざとく見つけるとすぐさまあややが対処する。

食事にはおかずごとにラップがかけられているが、これはカメムシ対策のようだ。味噌汁を運んで来た奥さんがカメムシを見つけると「カ～メムシさ～ん、こ～んにちは～」と歌うように節をつけてサッと捕まえた。

訓練から帰って来た自衛隊員たちとすれ違うように8時に宿を発った。ロープウェイ駅まで送ってもらうともう列が出来ていて第2便で山頂駅に着いた。

外に出ると赤倉岳、井戸岳、大岳が並んでいる。準備を整えて9:40にスタート。田茂范岳の前の平らな雪原であややが華麗なスケータリングを見せると

「あややさん昔スケートやってたって昨日言ってましたよね」とM本さんが頷いた。



寒水沢まで下りそこから大岳の避難小屋に向けて上り始める。井戸岳がすぐ近くに見える。標高を上げていくと風が次第に強くなってきた。避難小屋が見えてきた。屋根や壁、窓が細かいエビの尻尾で覆われ白いビスケットで出来たお菓子の家みたいに見える。あそこで一本入れるのかと思ったが

「もう少し先まで行った風が収まる所まで行こう」と指示が出た。

ところが風が弱まるような場所は無く、このまま大岳の山頂まで行く事になった。クローを取り付け固い斜面を上がって行く。

12時、大岳山頂に到着。連休明けで風が強いせいかな今日は山頂には人気が無い。あややは冬に大岳に登ったのは初めてだそうで

「へえ、こんな風に見えるんだあ！」と感嘆の声を上げた。

また北側から回り込んでガリガリの斜面を東へトラバースして行くのだが今日は東斜面に出ても雪がガリガリのままであった。こりゃあ厳しいや。エッジを効かせて少し長めの斜滑降でターンして下りて行くと、前の斜滑降で削った氷の欠片がちょうどタイミングよく上からカラカラと落ちてくる。あややはターンを嫌い広い斜面全体を横移動するように大きく滑って行った。下で合流すると

「ターンするのが怖いんで2回くらいしかターンしなかったよ。」

M本さんもM上さんのマンツーマン指導で無事下りて来て小岳とのコルで一本取った。

一昨日のように小岳を見上げる。M上さんも今日は登る気になっているようだが「ホリホリが小岳に登りたいって言うてるからさあ」と人を出しに使った。

樹氷の間を縫って小岳の斜面を上がって行く。13:40、山頂に到着。

「思ったより近かったですね」と言うのがM本さんの感想。確かに下から見た感じだともう少し掛かりそうな気がしたのだが。

向かいの大岳は広い火口を持っていて富士山のような美しい形で聳えている。硫黄岳はテントの方から見ると一面の樹氷でおろし金のように見えるが東側は打って変わってのっぺりとした斜面になっていた。小岳も硫黄岳と同じように西側は樹氷で埋めつくされ東側はのっぺり斜面になっている。気象条件でこういう植生分布になっているのだろう。

下降のため東斜面に回ったがここも下はカチカチのバーンとなっていた。エッジを立てて横滑りを使いながら少しずつ下りて行く。高度感のあるバーンで緊張するが、M本さんは意外と落ち着いているように見える。アルピニストだからだろうか。気の抜けない下降が続く。



やっとのことで仙人岱まで下りた。雪面が平らになったのでまたあややの華麗なスキーイングが披露される。

今日は地獄沼沢の谷筋を下りて行く。しかし昨晚の雨のためブッシュと露岩が増えていた。さらにカチカチだ。狭い所は堪らず板を外した。板を突き踵を蹴り込んで下るが滑らないかと腰が引ける。しかし早々に板を外したM本さんはそんな所でもヒョイヒョイと下りて行った。後で聞いたら

「どんなラインで下りたらいいかわかるんです」と言っていた。

「M本さんは冬山に慣れてるからこういう所得意なんだよ」とあややが評していた。

再びスキーを履いて滑り出すが雪が固いので足裏からゴリゴリが伝わって疲れる。全山ガリガリ、雨は大敵だ。15:50、酸ヶ湯に戻った。今日は酸ヶ湯で贅沢をしよう。

最終日、このまま帰ってもいいのだが、せっかくなのでもう少し遊びたかった。午前中のうちに戻る事を前提に大岳に向かって歩くことにした。

8:30 スタート。登山口からはあややを先頭に隊列が進む。昨晚降雪があったようで雪質が良くなっている。途中から地獄沼沢の方へは行かずに左のアオモリトドマツの斜面に取り付いた。

次第に傾斜がきつくなってきた。等高線が密になっている所だ。

「あそこの黒っぽく見える所まで行って終わりにしよう」とM上さんが目標を決めた。

もうひと頑張り、もうひと頑張りと上がって行くと台地に出て、その先の黒っぽく見える所の手前には傾斜のある斜面が立っていた。取り付くと氷の上に雪が乗った斜面でエッジが引っ掛からず上がりにくい。

「もうここでいいんじゃない」と言う

「せめて二段上のクラックの上まで行こう」とあややが言う。頑張って一段上がるとあややは板を外しツボ足で上がって来た。二段目をツボ足で上がって1,230m 地点でここまでとなった。

「あやや、こうまでして最後の二段上がる必要はあったの？」

ザックを下ろし振り返るとうっすらと岩木山が浮かんでいた。

さあ、今回の遠征最後の滑りである。すると「今日はホリホリのために滑るよ」とあややが言う。何の意味も無い、りくりゅうペアの名言を言ってみただけなのである。

アオモリトドマツの森を抜け登山道に出て滑って行く。昨日に比べてだんぜん雪質が良くなっていた。最後をこんな雪で終えられて良かった。

11:30、酸ヶ湯に戻って来た。温泉にサッと浸かってもまだ 12 時。あややと僕は 12:30 のバスで帰る事にした。M上さんとM本さんは少しゆっくりして 14:30 のバスにするそうだ。そういうわけでここで解散となる。

長かった遠征、昨日の雪質が良ければ完璧だったけれど、2月末の八甲田の雪がもうこんなだとは驚きだ。M上さんは来年は時期をもう少し早くした方がいいと言っていた。それにしても良く歩き、良く滑って、美味しいもの食べたなあ。きっと来年はモアベターだろう。

(H口 記)

